

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2972300129		
法人名	有限会社サンコーポレーション		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	奈良県宇陀市榛原区萩原750		
自己評価作成日	平成22年6月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kai gosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号		
訪問調査日	平成22年6月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは、市の中心地に近く、事業所の前には川が流れ、対岸には森や神社が見え四季の変化を楽しむ事が出来る。事業所は平屋のバリアフリーの建物で、同じ敷地内に小規模老人ホームやカルチャー教室があり、イベントなどで交流を図っている。
 事業所内でもスケッチ画教室・英会話教室・お抹茶教室などを開催している。食事は新鮮な食材を使った栄養バランスの良い手作りの料理を提供し、利用者の楽しみの一つになっている。事業所内で飼っている小型犬も良く慣れていて利用者を和ませている。家族のようなアットホームな雰囲気の中で利用者が生き活きと楽しくその人らしく有意義な余生を送れるように職員全員で取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは榛原駅から7・8分歩いたところにあり、自然豊かな、落ち着いた環境である。管理者が地元ということもあり、近隣のコミュニケーションも充実しており、ボランティアの方の協力も得て、日頃から交流がある。また入居者の楽しみの1つになっている毎日の食事は、地元の高原野菜などを使った手料理で、彩りもよく、栄養の事も考えた献立になっている。職員はホームの理念である「明るい笑顔と温かい心」をモットーに日々ケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は、日々の仕事の中で職員と密に理念を確認しつつ、実践に向けて取り組んでいる。	「明るい笑顔と温かい心」をモットーに、昨年の外部評価の要望を受けて、管理者・スタッフで話し合い「住み慣れた地域の家庭的な環境のもとでその人らしく安心した生活をおくれるように支援する」と地域との関係をもりこんだ内容にされた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	管理者が、イベントや面会等機会あるごとに家族や地域の人々に地域に根ざした事業であることの紹介や説明をしている。	自治会に加入し地元の祭りへの参加や、ホームでの催しもの(クリスマス会・落語会)にも気軽に地域の方が参加されるなど、交流がはかられている。またボランティアの方もよく来られている。中学生の職場体験も受け入れ、高校生の介護実習の受け入れも予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内の行事等に地域の方々に広く参加していただき、現状を理解し支援の方法を活かしていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が自治会に入っており、地域活動には出来る限り参加し、地域の人々と交流を深めるよう努めている。	運営推進会議は、年に2回平日の昼間に開催されている。市の福祉担当者や地域の関係者・家族・職員が参加している。最近では「防火」について話し合いが行われたようであるが、議事録がないので、内容が認識出来ない。やはり、要望や意見などを議事録として残し、職員間で共有されることが望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	夏祭り・クリスマス会等には近隣の高齢者へも参加の呼びかけをし、又、事業所内では何が地域貢献につながるか、自由に意見を出し合い前向きに取り組むようにしている。	市の担当者との連携もよく、入居の依頼があったりもする。ホーム便りを発行しているので、市の担当者にも届け、事業所の状況や悩みなどを伝え、相互の協力関係を築かれることを期待する。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる行為を全職員が理解した上で、常に細かく目配りして、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	病院と間違えて外部の人が入ってきたことがあったので、玄関の鍵はかけている。しかし、ウッドデッキへ自由に入出入りが出来、外の空気を吸ったり、景色を眺められこれができるので、利用者は伸び伸びと生活ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何かについて講師を呼んで施設内研修を行い、日常生活を見直し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加し、施設職員に勉強会を実施し、理解を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等に不安や疑問を感じさせないように、事前説明を十分に行い、利用者や家族等からの質問には理解・納得が図れるよう丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が定期的に利用者と面談する機会を設け、意見や不満を聞いている。又、年数回介護相談員に意見等を聞きに来てもらい運営に反映させている。	家族の面会時には、事務所か利用者の居室で話している。悩みの相談などにも応じている。しかし、面談の内容が記録されていないので、今後のサービスの向上に反映させてゆく為にも記録し、職員全体で共有してゆくことが望まれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常日頃から施設運営等について問題が生じた場合はリアルタイムに職員の意見を聞くような体制にしている。	常時管理者が職員と一緒にいるので、その都度職員から意見を聞いている。職員の提案を取り入れて工夫した事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の努力・実績・勤務状況を把握し、職員と意見交換し、各自が向上心を持って働ける様、明るい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は各種研修に参加すると共に、お互いのケアの向上を行えるように個々に応じたOJTを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会し、各種大会や会合にも積極的に参加し、情報交換や勉強会にも参加してサービスの質の向上が図れるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思い、困り事に対して耳を傾け、納得するまで話を聞き取る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体験入所をしてもらい、家族が納得した上で、入居してもらおうにしている。家族の困り事・要望に耳を傾け、受け入れ体制づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が希望されている介護の方法を見極め、必要に応じ、他のサービス利用の対応にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を家族の一員として接して生活を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係が保てるように、面会時間を一応もうけているが、家族の意向で自由に面会の機会を持っていたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に、一緒に外出し(墓、旧家等)本人の思いを尊重できるよう支援に努めている。	ある利用者については、年に1回墓参りに行き、昔なじみの方と会われるなど、関係が途切れないように支援している。また友人もよく訪ねてこられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調が許す限り、日中、リビングの円たくで、全員と一緒に過ごし、お互いが支え合うアットホームの環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内のイベントの参加や近くに出かけた時には立ち寄り等をして経過をフォローできる関係を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活(会話)の中から、本人の希望等の把握に努め、また家族の意向も取り入れるように努めている。出来るだけその人らしく過ごせるように努めている。	フェイスシートをADL(動作)中心からセンター方式にかえ、本人の思いや意向の把握に添えるように工夫している。半年に1度は家族の意向も聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活履歴等を理解し、今後の生活に生かせる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日常の心身状態を把握し、持っている力を生かせる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者と職員が意見交換を行い、本人や家族の意見を出来る限り取り入れ、利用者本位の計画になるように努めている。	日頃面会の時などに家族の意見を聞き、管理者と職員で話し合い、介護計画書を作成している。その後面会時に説明して家族の意見をきいて、介護計画書にサインと共にコメントを記入していただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に出来る限り詳細に記入し、職員間で情報を共有し、ケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じて、必要なサービスが実施できるように柔軟に対応していく。		

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に出来る限り参加し、本人が豊かな暮らしを楽しめる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時にも対応してくれるかかりつけ医が毎月往診している。その他医療機関を受診するときは職員が付き添い早期受診をこころがけている。	協力医院から毎月定期的に医師が診察に来ている。緊急時の対応もできている。通院も家族の要望があれば付き添い、送迎もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきを看護師や訪問看護師と相談ルートをとって、適切な受診看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設と入院できる連携病院を確保し、利用者が入院されても、洗濯や見舞いに訪れ、病状の変化を確認・病院関係者と情報交換・相談を実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期においても、出来る限り施設で生活が出来るように、家族を含めて話し合いを持ち、連携病院を含めチームで支援に取り組んでいる。	利用者の高齢化が進み、ターミナル期ケアを利用者・家族の希望を聞き、前向きに取り組まれている。かかりつけ医や職員とも相談しながら、対応している。	今後ターミナル期ケアは避けて通れない重要な支援となるので、ホームとしての方針を明文化し、共有をはかることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの導入・初期対応の訓練を行い、的確な処置が出来る様に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練は、消防署の指導を受け訓練をしている。	6月に消防署の指導のもと、防火訓練を行い、AED設置の折には、地域の住民を招き、講習会を開き、日頃から協力体制を築いている。非常食の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を傷つけないように言葉かけに配慮している。トイレの誘導時にもさりげない言葉かけを行うようにしている。	普段から尊厳・プライバシーを大事にするように心がけ、入浴やトイレ誘導も温かい言葉がけで接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己主張・自己決定できる雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、その日の過ごし方を聞き入れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に利用者が清潔・身ざれいである様に心がけ散髪・エステ・衣類の調整を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食事の準備や片付けに参加出来るように心がけている。	食事の前にはホーム独自の「ひまわりソング」を歌いスタッフと一緒に楽しく食事している。お茶入れや片付けなど、出来る事はしていただいている。食事は旬の野菜を多く摂れるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた形態・量・摂取方法を考慮し、必要な栄養バランス・水分量がとれるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導回数をふやす事で排泄のパターンを理解し、出来る限り失禁を減らし、自立できるように支援している。	リハビリパンツ着用の利用者もリハビリをかねたトイレ誘導で改善された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事摂取と適度の運動水分摂取を促し、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯は予め決められているが、体調や本人希望に合わせて時間や入浴方法の変更(足浴等)を実施している。	基本的には月・水・金曜日に入浴しているが、利用者の体調にあわせて、足浴やシャワーをすることも。入浴の苦手な方にも上手に声かけをして、楽しい入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	プライバシーを保てるように個室を利用し、状況に応じ、室温調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬記録を作成し、職員が常日頃からノートに目を通し、注意点を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	室内犬の世話・洗濯たみ、料理や食器洗いの手伝い・掃除の手伝い等その人に応じてできる事をしてもらえるよう役割分担をしている。あやとり・お手玉・百人一首・大正琴・俳句・唱歌等の時間も設け、生きがいもてるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を出来る限り聞き、又、家族にも相談し買い物や美容院等への外出の機会を増やすようにしている。	入居者の希望を聞いて、美容院やスーパーに出かけている。男性スタッフが、常勤しているので、車いすを車に乗せて、外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じてお金を所持して使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、電話をかけたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には季節の花々を飾り、壁には入居者の描いた絵や書、写真を掲示している。また室内犬を飼い、家族の一員としてアットホームな雰囲気作りを心掛け、利用者にとって心和む空間作りをしている。	どの部屋も風とおしがよく、リビングには入居者の絵や書が飾ってある。共用の廊下も広く手すりもあり、歩行の練習にもなっている。風呂・トイレも広く清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやホームごたつ等を置き、プライベートに過ごせる居場所づくりの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や持ち物・仏壇等を持ち込んでもらっている。個々に応じたのれんと手作りのネームプレートを部屋の入り口に掛けて自分の部屋に愛着を持ってもらい、心地よく過ごせるように工夫している。	使い慣れた家具が置かれ、仏壇や遺影の写真も飾られている。その人らしい家具に囲まれ心地よい室内となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を生かし、自立した生活を送れるように支援し、安全面にも十分な注意を払っている。		